

Challenger

Topics

農業分野の労働力の確保と雇用管理について学ぶ

本県では、「園芸大国とちぎづくり」の一環として、水田への露地野菜の作付推進をはじめ、土地利用型園芸及び施設園芸を推進しています。一方、農業就農者の減少や高齢化等による労働力不足が進行する中、農業分野での労働力の確保が大きな課題となっています。

そこで、令和元年12月6日、安定した農業労働力の確保と雇用管理のため、「土地利用型園芸産地づくりセミナー」を開催したところ、管内認定農業者をはじめ、市町・JA担当者等約70名の参加がありました。

1 講演「農業分野での外国人実習生の取組事例

講師 協同組合エコ・リード専務理事 渡邊 政己 氏

〈取組内容〉

外国人技能実習制度や特定技能外国人の受入れなど、外国人材を活用した農への関心の高まりを受け、JA茨城県中央会では平成25(2013)年10月に監理団体「協同組合エコリード(以下、エコリードと略す)」を設立しました。茨城県ではJAでも監理団体の資格を取得しています。茨城県の外国人実習生は中国人、ベトナム人、タイ人などですが、「エコリード」ではベトナム人の受入れに力を入れており、設立後5年間で554名(令和元年6月現在)の実習生を農家に取り次いでいます。

〈外国人技能実習生の受入れ農家の概要〉

効率的・効果的な研修を実施するためには、研修受入側の農家が法律・ルールに基づいて対応することや、外国人技能実習生と十分にコミュニケーションを取ることが重要とのアドバイスがありました。

受入れ農家の経営類型はレタスや白菜などの重量野菜が多く、男性の割合が約8割を占め、女性は葉物野菜の袋詰め等が主な作業です。なお、稲作農家と肥育農家は種子や種の問題があるため受入れはできないとのことでした。

外国人実習生を利用している農家は、「支払いが可能な所得」がある人で、1人の実習生を受け入れる目安として、11,000～15,000千円の収入が必要との説明がありました。

また、途中帰国者や失跡者など、実習生のトラブルもあり、失跡の要因としては、実習生と受入れ農家の信頼関係が悪化している場合が多いとのことでした。

〈外国人技能実習生の受入れに係わる経費〉

実習生受け入れに要する経費は、受入側の経営体(法人・個人経営)により異なりますが実習生1



人当たり約210～240万円です。主な経費は、入国時の実習に関わる各種経費と、実習生受入れ後の各種保険に関わる費用です。外国人雇用は安いイメージがありますが、日本人の周年雇用と同程度といえます。

2 事例報告

①「外国人技能実習制度及び改正出入国管理法の本県の取組状況と労務管理のポイント」

県農政部経営技術課担い手育成担当

- ・栃木県内の外国人技能実習制度の管理団体は15団体(令和元年11月8日現在、農業以外含む)
 - ・栃木県内の特定技能制度の登録機関は46団体(令和元年11月21日現在、〃)
- (外国人材に関する労務管理のポイント)

- 1) 労働契約: 書面契約(契約期間、仕事の内容、休息・休日、賃金など)
 - 2) 安全教育: 機械操作、農薬取扱い、作業手順
 - 3) 就業規則: 労働者が常時10名いる場合には作成が義務(始業・就業時刻、休日、賃金)
 - 4) 労働条件※: 農業は、労働基準法のうち、「労働時間、休憩・休日」の規定が適用除外
 - ・労働技能実習→農業であっても規定を準拠すること
 - ・特定技能→日本人と同様、適用除外ではあるが、働きやすい環境を整える必要あり
 - 5) 保険加入※: 労災保険、雇用保険、社会保険(医療保険・年金保険)
- ※外国人技能実習制度と特定技能制度により異なる場合あり

②「栃木県における”農福連携”の取組」

下都賀農業振興事務所

栃木県では、誰もが農にふれ、癒やしを得る「ユニバーサル農業」を推進しています。近年、「農の福祉力」に着目した農業分野への障害者就労に関心が高まっており、農業者と障害者福祉施設との農作業受委託を進めています。本県では、農業分野への障害者就労を支援するため、「とちぎセルフセンター」を核に、「農福連携マッチング」事業を平成30年度から実施しています。農作業受委託に係る「農業者」と「福祉施設」の橋渡しの他、「農福連携」に対する農業者の不安払拭にも取り組んでいます。《問合せ: 下都賀農業振興事務所 企画振興部》



③管内JAIにおける無料職業紹介事業の紹介

各JA担当

管内各JAにおいて整備された無料職業紹介所の取組状況について、JAしもつけとJAおやまの担当者から報告がありました。両JAともJA栃木中央会のWEBサイトを活用しており、求人を求める農業者と求職者とのマッチングも徐々に増えているとのことでした。



【参考】

J A 栃木中央会は7月8日、農業専門求人情報サイト「とちぎの農業で働こう」を開設しました。農業で働きたい方がWEBサイトを通じて登録し、農家とのマッチングをJAが行っています。

<https://entori.jp/tcchu-ja>

今回のセミナーを通じ、農家の皆様にとって、今後の農業経営における雇用確保・栽培管理の一助となれば幸いです。

露地野菜専作経営の実践！～「働き方改革」で作業効率アップ～ (令和元年度土地利用型園芸コンクール大賞受賞)

ひじや
小山市 ひじや農園 代表 土屋喬平さん

経営概要等

現在、正社員3名、パート従業員3名、妻と私の8名体制で、レタス、とうもろこし、キャベツを栽培しています。昨年度の経営面積は10ha、今年度は13haを予定しています。

私どもの経営は一言で言うなら「温故知新」です。私は10年前に新規就農するために神奈川県から小山市に移住してきました。農業に関しては何の知識も、経験も、農業をやっている知り合いすらいない、ゼロからのスタートで、この農業の世界に飛び込みました。

私たちの野菜づくりの基礎となっているのは、地元の農家の方々に教えていただいた技術です。小山市はレタス、白菜、キャベツ、とうもろこし、といった露地野菜の産地です。この地域には農家が、長い年月をかけて培われてきた技術があります。地元の先輩農家や部会の先輩方は、その貴重な技術を新参者の私どもに、丁寧に教えてくださいました。私たちは、その技術をありがたく受け止め、私たちなりのやり方で取り組んでいるところです。



安定生産に向けた取り組み

《人材の育成》社員に対し人事考課制度を取り入れ、社員全員に1年間の作業の洗い出し、自己採点を実施してもらい、それに基づき個々の賃金(給与)を設定しています。「若い世代が安心して働ける職場環境づくり」をモットーに、半年に1回の雇用者との対面方式による個別面談を行なっています。

《技術の習得》作物毎の作業内容のマニュアル化(見える化)に取り組み、1年間の作業予定表(播種・定植・収穫など)を作成し管理しています。さらに、社員に業務日報をつけてもらい、日々の学びを記録するとともに、マニュアル、日報、レポート、スケジュールなどはすべて画像データとして、スタッフ全員と共有しています。

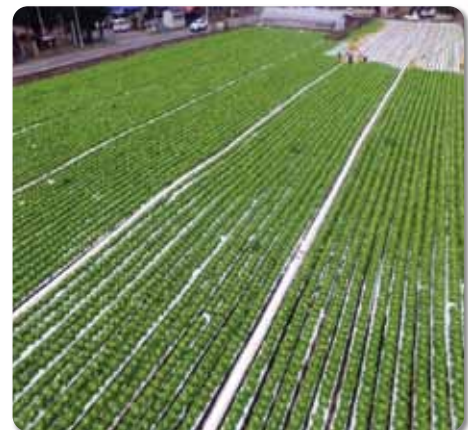
《労働力の確保》規模拡大とともに就農3年目からパート雇用を開始しました。就農8年目には正社員を雇用することにしました。農園の作業従事者の平均年齢は39歳と若いのも特徴の1つです。なお、若い世代に働いてもらうために、平成30年4月に社会保険適用事業所になり、健康保険、厚生年金保険に加入しており、社員は安心して仕事に取り組んでいます。また、午前、昼食、午後の休憩時間はしっかり設け、有給休暇制度を整備しています。

《経費節減》地に足の付いた経営を目指した機械等の整備を心がけ、新規就農時から、中古のトラクターや軽トラックをはじめ、作業小屋、予冷库、包装機も中古で安く整備しています。

今後の目標

「人」と「技術」が育てば、作業効率が向上し自ずと経営面積は増えてくるものと考えています。現在は6haの農地に平均年2作の作付けを行なっていますが、3年後の目標として、農地は10haまで規模拡大を目指したいと思っています。

今があるのも最初に出会った農業委員さんや地域の方々、部会の先輩方の指導やサポートのおかげだと思っています。今後も人(地域)との繋がりを大切にしていきたいと考えています。



雇用の安定確保と人材育成を目指したいちごの法人経営

栃木市 株式会社 谷中農園

経営の概要

- 経営面積
いちご 71a(とちおとめ:49a、スカイベリー:16a、栃木i37号:6a)
水稲 190a
- 労働力 役員2名、正社員2名
常時雇用 2名
臨時雇用 1名

経営の発展経過

栃木県農業試験場栃木分場で一年間研修後、平成19年に就農しました。就農当時は栽培面積54a、両親、祖父、祖母の家族5名と臨時雇用6名による経営でした。就農した年に高設栽培システムを導入し、作業姿勢の改善、作業時間の短縮等のメリットを生かし、現在の栽培面積まで拡大しました。平成29年には法人化し、正社員の雇用、社会保険の整備を図っています。現在は、クラウン部冷却技術や環境制御技術の活用、新品種「栃木i37号」の導入により、さらなる収量、品質の向上に取り組んでいます。



雇用活用の取組

雇用の確保はJAの求人サイトの利用、個人的な紹介が多く、その他、農の雇用事業を活用しています。

休息時間をしっかり確保し、お互いのコミュニケーションを取ることで意思疎通がしやすい職場環境づくりに努めました。暦どおり休日が取得できるよう作業スケジュールを調整した上で、事前相談によりいつでも休日を取得できる体制を整えています。

また、地元で人気の洋菓子店や和菓子店で利用されるいちごを作っていることで自然とモチベーションも高くなり、社員、パートさんと日頃から自分の思いを共有することで谷中農園のいちごに自信をもってもらうよう心掛けています。



今後の目標

今後は、経営改善を図り、利益率の向上、生産能力の向上、ニーズを掘り下げた商品開発により省力化を図りながら売り上げ向上を目指していきます。また、社会保険の整備を進め、福利厚生の実施を図り、雇用の安定確保と人材育成に尽力していきたいと考えています。

個性尊重型の働き方が支える新進気鋭の洋らん経営

下野市 宇戸平庄一郎さん

経営の概要

- 経営規模 コチョウラン 3,630㎡
- 機械施設 ガラス温室、ビニールハウス、温風暖房機、ヒートポンプ、発電機 など
- 労働力 家族4名、常時雇用4名、臨時雇用22名

経営の発展経過

- 2001年 新規参入で就農。栽培面積480㎡からスタートする。
- 2005年 ハウスを増設し1,914㎡へ、ヒートポンプ4台導入
最初のオリジナル育成品種出荷開始
- 2011年 東日本大震災の影響による停電で被害を受ける。
発電機を導入

現在 「蘭のフレンズ」として、施設面積3,630㎡で年間約10万株を出荷。

○経営の特徴

- ・オリジナル品種の育成、現在までに20～30品種を出荷
宅配便の規格に適合するコンパクトな株形質と長期
輸送等の乾燥状態に強い株を育種目標としている。
- ・培地及び適正施肥の徹底
- ・高輝度LEDの導入による品質向上
- ・契約店への直接販売と積極的なインターネット販売

雇用活用の取組

常時雇用となる従業員は、栃木県農業大学校及び栃木農業高校の卒業生を中心に雇用しています。また、パート職員は以前に住んでいた宇都宮市内の友人からの紹介で採用し、その後パート職員の友人そのまた友人という形で雇用しており募集をかけず、極めて定着率の高い職場となっています。

雇用するにあたり、自覚と責任を持って仕事ができるように人材育成に尽力しました。例えばかん水管理では、職員に一斉にかん水作業をやってもらい、個々の作業に対する特徴を把握します。作業が早い人、慎重な人、人により様々です。必要なかん水量はその日によって異なるので、その量に応じて、多く必要な場合は「慎重な人に合わせるように」、少ない場合は「早い人に合わせるように」との指示をして、個々の特徴を活かしつつ仕事への自覚と責任を持たせるようにしました。その結果、互いの個性や特徴を認め、それを生かし合いながらあたたかい雰囲気の中で仕事を進めていく職場環境が整いました。また、女性が多い職場なのでパートナーである妻の力が非常に大きいと感じています。福利厚生面では年数回は全員が参加できるように昼食会を開催し、作業ピーク直後には不定期で「お疲れ会」を開催しています。

さらに、今後の目標については職場でわかりやすく説明することでモチベーション向上に繋がっています。

今後の目標

高輝度LEDを本格的に導入した結果、施肥量や方法の見直しが必要となり、品質の大幅な改善が進みました。現在は、炭酸ガス施用による光合成促進効果について検証し、必要な施設整備を行いたいと考えています。また、以前から検討していた法人化を進めて行く予定です。



働きやすい職場環境づくりで、牛も人も充実

下野市 株式会社 野村牧場

経営の概要

株式会社野村牧場では、黒毛和種と交雑種(黒毛和種×ホルスタイン)の肉用牛肥育牧場と自家産の牛肉とその加工品等を販売する直売所を運営しています。

牧場では、代表取締役社長と父、常時雇用5名と臨時雇用5名、研修生1名で約800頭の牛を飼育しています。直売所では、社長の妻、常時雇用2名とパート3名で肉の加工および総菜の調理から販売までを行っています。



経営の発展経過

父が就農した当時の昭和50年は、米麦・養蚕・かんぴょう・露地野菜の複合経営でした。その後、昭和52年に乳用種肥育牛5頭を導入し、5年後には50頭規模に増頭しました。平成3年の牛肉輸入自由化を契機に、肉質向上を目的として交雑種肥育経営へ切り替えました。平成13年には現在の社長が就農し、牛舎等を徐々に増築、雇用も取り入れ、平成16年ごろにはほぼ現在と同じ頭数規模になり、平成26年には法人化しました。平成27年には、野村牧場直売所も開店し現在のような経営形態となりました。

雇用活用の取組

現在の従業員は、ほとんどが知り合いからの紹介で、県農業大学校卒業生や牧場勤務経験者であり、牛の仕事に魅力を感じている方々で、平均年齢は25.8歳です。他には他県の繁殖農家からの研修生も受け入れています。

従業員専用の休憩所の設置、社会保険や育児休暇制度の充実などの働きやすい職場環境を整えています。従業員からは、勤務時間が8:00～17:00でほとんど残業がないことも魅力との声があります。

藁集めなどの繁忙期は、牛の管理が手薄になることがないように、近隣から臨時雇用を確保し、過重労働にならないよう配慮しています。また研修会を行い、従業員の技術取得を支援しています。

これらの取組により、従業員の結束力が強くなり、農場環境の向上につながり、平成31年4月には農場HACCP認証を取得しました。

更に、大好きな牛の仕事を仲間とできることで従業員の定着率向上にもつながっています。



今後の目標

今後も優秀な人材確保に努め、職場環境及び牛の飼育環境の充実を図っていくと共に、直売所等でのサービス向上にも繋げて、地域で親しみのある牧場にしていきたいです。

GAP認証に向けた具体的取組(農場整備編)

改善すべきこと

GAPで認証を取得するためには、農場を整備する必要があります。この場合、整備は農業のリスクを低減するために行います。

農作業の安全

作業にふさわしい服装をします。巻き込まれ事故の可能性のある作業の時は、すそや袖口がすっきりした服を着ます。農薬散布時には防護服、手袋、ゴーグル、農薬用マスクなどを着用します。防護服は使用后洗浄し、他のものを汚染しないところに保管します。

農場は作業員全員が把握できるよう、農場の配置図を作成し、危険箇所などがわかるようにする必要があります。また、緊急連絡先を掲示しましょう。

また、事故に備えて救急箱を用意します。救急箱の中にはばんそうこう、包帯、ガーゼ、消毒剤、虫刺され薬などを用意します。水道から離れた場所の場合、傷を洗う水もペットボトル等で用意しましょう。

農作業の安全

出荷調製作業を行う場所の照明は、飛散しない照明器具か、飛散防止カバーを使用して割れても農産物に飛散しないようにします。こうした場所に害虫や動物が近づけないように網戸などを設置します。土足禁止など、衛生状況を維持するよう新たなルールを決める必要もあります。

農薬保管庫

農薬保管庫は、強固なつくりで、引火しにくい非吸収性の材質のものとし、ラベルが読める程度の明るさを確保するよう、暗い場合は照明などを用意します。また、鍵をかけて保管することが必要です。

農薬保管庫のそばには、砂・ほうき・ちりとりを設置します。農薬をこぼした場合は、掃き取るためですが、液剤の場合は砂に吸い込ませて回収します。

肥料の保管

肥料は直射日光、高温、雨、露及び霜の影響を受けない屋根等の覆いがあり、農薬等による汚染のない清潔な場所で保管します。

燃料の保管

燃料容器は法律に適合したものを使用し、周りに可燃物を置かないようにします。タンクの容量によっては防油堤の設置が必要になります。また、配管にひびや漏れがないか定期的に確認します。



農薬保管庫周辺

新農業士・新名誉農業士の紹介

1月9日に栃木県公館において令和元年度栃木県農業士・女性農業士・名誉農業士認定式が挙行されました。県内で農業士11名、女性農業士2名、名誉農業士22名に福田知事から直接認定証書が交付されました。下都賀地区で認定されきた方を御紹介します。

新農業士

☆壬生町 大垣恭宏さん・公映さん

- ・経営類型 施設トマト+水稲
- ・経営の特徴

トマトは、全量JA出荷です。近年の価格下落に対応するため、誘引方法の改善によってA品率を高めています。併せて調理用の「シシリアンルージュ」は契約取引で価格の安定を図っています。

また、化学農薬の使用を極力控えるために、周囲の環境整備や病虫害の発生状況をこまめに観察し、迅速・適切な技術対応を行い、生物農薬を的確に使用することで安全性の確保と環境にやさしい農業を実践しています。



新名誉農業士

小山市 菅沼正治さん

- ・経営類型 水稲+麦+大豆
- ・農業士活動 17年
- ・活動内容

大豆生産部会長や集落営農組合長などを務めており、地域のリーダーとして活躍されています。

また、「田んぼの学校」として小中学生へ食育学習にも取り組まれています。

下野市 坂本英希さん

- ・経営類型 いちご+水稲
- ・農業士活動 20年
- ・活動内容

栃木県農業大学校の学生受入を長年にわたり積極的に協力され、担い手育成に貢献されました。

また、「農事組合法人仁良川」の設立運営に中心的な役割を果たされています。

下野市 大越歌子さん

- ・経営類型 水稲+麦+農産物加工
- ・女性農業士活動 20年
- ・活動内容

家族経営協定締結や認定農業者共同申請の先駆者として地域内への推進を図っています。

また、「企業組合らんどまあむ」を設立し、女性の活躍の場を創りだしています。

下野市 大橋一男さん

- ・経営類型 水稲+麦+露地野菜
- ・農業士活動 19年
- ・活動内容

栃木県農業大学校や宇都宮大学の学生受入を長年にわたり積極的に協力され、担い手育成に貢献されました。

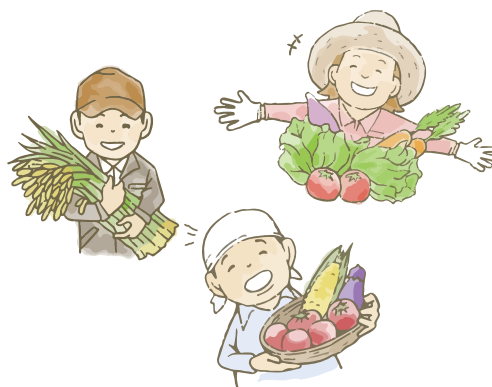
また、露地野菜を先駆的に導入し、産地形成の礎となっています。

野木町 館野アサ子さん

- ・経営類型 露地野菜
- ・女性農業士活動 19年
- ・活動内容

JA女性会支部会長として、新たに機械操作講習会を企画するなど女性農業者の育成に取り組んでいます。

また、町の様々な委員を努め地域農業の振興に取り組んでいます。



コンクール・表彰事業の結果

🌟 栃木県優良担い手表彰事業《最優秀賞》栃木市 パナプラス株式会社

11月12日にとちぎ男女共同参画センターで開催された「令和元年度栃木県農業担い手躍進大会」において、栃木市のパナプラス株式会社が栃木県優良担い手表彰事業優良認定農業者の部(法人)で最優秀賞を受賞されました。

パナプラスは地域雇用の安定、パート従業員の正社員化など、女性経営者ならではの視点から、子育て世代にも働きやすい環境整備などの取り組みが評価されました。

受賞、誠におめでとうございます。



🌟 農林水産祭《日本農林漁業振興会会長賞》下野市 企業組合らんどまあむ

11月14日に明治神宮で開催された「第58回農林水産祭式典」において、下野市の企業組合らんどまあむが日本農林漁業振興会会長賞を受賞されました。らんどまあむは郷土料理の発掘と伝承、地域の食育活動、高齢者世帯の配食サービスと共に行う安否確認など、地域貢献が高く評価されました。

受賞、誠におめでとうございます。



🌟 第47毎日農業記録賞《優良賞》下野市 株式会社伊澤いちご園 代表 伊澤敦彦さん

2月5日に栃木県庁で開催された「第47回毎日農業記録賞表彰式」において下野市の伊澤さんが優良賞を受賞されました。「吉田村まつり」を始めとする地域活性化の取組や地域資源(風景・歴史・農業・食)を生かしたグリーンツーリズムへの思いなどが評価されました。

受賞、誠におめでとうございます。



🌟 第12回栃木県冬春トマトグランプリ表彰《大賞》小山市 篠田安彦さん・博美さん

8月5日に栃木県庁で開催された「第12回栃木県冬春トマトグランプリ表彰式」において、小山市の篠田夫妻が、大賞並びに農林水産大臣賞を受賞されました。篠田さんのトマトは、光合成を意識した適切な管理により、品質が良く、病害虫も少なく素晴らしいトマトだったと表彰式でも評価されました。JAおやまとトマト部会としては、2年連続の栄誉となりました。

受賞、誠におめでとうございます。



🌟 第1回栃木県農業大賞《栃木県知事賞》栃木市 株式会社TanakaFarm誠

2月12日に栃木県庁で開催された「第1回栃木県農業大賞表彰式」において、栃木市の株式会社TanakaFarm誠が、栃木県知事賞を受賞されました。TanakaFarm誠は地域農業の担い手として貢献することを目標に、耕作地等を丁寧に管理することで、地域の信頼を得て大規模土地利用型経営を行っていることが評価されました。

受賞、誠におめでとうございます。



認定農業者協議会通信

下都賀地区認定農業者協議会視察研修

10月11日に先進地視察研修を行いました。

◎株式会社ワンダーファーム(JRとまとランドいわきファーム)

- ・4年前にとまとランドいわき(30年位前からオランダ式ハウスでトマト生産)とJRの共同出資で設立(地域の復興)
- ・トマトのハウス規模:1.7ha(3,800株、600t/年)
- ・施設費用:8億円(約4億円が復興補助金)
- ・職員:正職員3人(JR:主に人事管理)、パート30人(20~60歳代:主に50歳代)
- ・販売先:JR関連施設1/3、森のレストラン1/3、加工1/3、少量JA出荷有り
- ・トマトの栽培種類:10品種
- ・生産管理:温度、湿度、光等の自動管理、養液栽培(ロックウール)、防除(生物農薬使用)
畝内にレール(冬は温水を通した暖房としても使用)を設置
- ・来場者:約40万人/年(ミニトマトを中心に摘み取りを実施)
- ・周囲の山林を活用した施設開設を検討中



◎道の駅よつくら港、浜風きらら(商業施設)、Jヴィレッジ、スパリゾートハワイアンズとの復興連携(福島県やいわき市が先導)

◎森のレストラン: トマトを使用したビュッフェスタイルの料理

◎森のマルシェ: トマトの加工品を中心としたお土産、連携企業のお土産コーナーを設置

農作業等安全対策

春になると本格的に農作業が始まります。安全対策を徹底しましょう。作業前後の点検整備、作業に合わせた服装等が重要です。

また、ほ場周りの環境改善(清掃)にも心掛けましょう。

※道路交通法の改正により、ロータリー等を装着したトラクタが一定の条件下で公道走行が可能になりました。(詳細は道交法トラクタで検索)



令和2年度農業機械研修計画

取得できる資格	日程	諸経費
大型特殊自動車免許 (農耕車限定)	令和2年 9月中旬~10月上旬 10月下旬~11月中旬 令和3年 2月上旬~2月中旬	14,000円程度
けん引免許(農耕車限定) ※大型特殊自動車免許取得者に限る	令和2年11月下旬~12月上旬 12月上旬~12月中旬 令和3年 1月上旬~1月下旬	9,000円程度

※詳細は栃農大で検索

SEARCH

栃農大

発行

栃木県下都賀農業振興事務所
栃木市神田町5-20

経営普及部 ☎ 0282(24)1101
FAX 0282(23)6563



下都賀農振

検索

